

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-22950

(43) 公開日 平成7年(1995)4月25日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 5 D 33/38

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平5-59641
(22) 出願日 平成5年(1993)9月29日

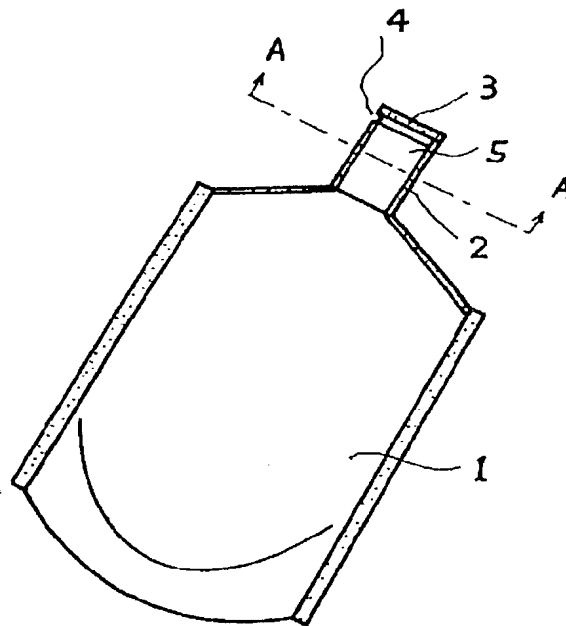
(71) 出願人 000133412
株式会社ダイワボックス
大阪府東大阪市高井田本通7丁目1番11号
(72) 考案者 江口 邦義
東大阪市高井田本通6丁目38番の1 株式
会社ダイワボックス内

(54) 【考案の名称】 注出ガイド付包装袋

(57) 【要約】

【目的】 袋から液体内容物を詰め替え容器にうつしかえる作業を容易、簡便に実施できるようにする。

【構成】 注出口を形成した包装袋に、少なくとも注出口部分の位置を含んでガイドシートを袋の片面乃至両面に接着一体とした構成とする



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 注出口の先端部分にシール部をもうけた包装袋において少なくとも注出口部分に位置するようにガイドシートを接着固定したことを特徴とする注出ガイド付包装袋

【請求項2】 ガイドシートは包装袋の外側に位置するように片面乃至両面に接着固定したことを特徴とする請求項1の注出ガイド付包装袋

【請求項3】 ガイドシートはポリエチレンテレフタレート樹脂等の合成樹脂材からなり、包装袋の注出口に剛性を与えるとともに弁機能を与えるようにした請求項1の注出ガイド付包装袋

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施例1の注出口にガイドシートを装着し一体化した包装袋の斜視図である。

【図2】 実施例1の図1におけるA-A断面図である。*

2

*【図3】 実施例2の注出口にガイドシートを装着し一体化した包装袋の斜視図である。

【図4】 実施例3の傾斜をもたせた注出口にガイドシートを装着し一体化した包装袋の斜視図である。

【図5】 実施例4のガイドシートが袋上縁部にまで形成された包装袋の斜視図である。

【符号の説明】

1：袋

2：注出口

3：シール口部

4：開口切欠部

5：ガイドシート

6：フィルム

7：接着層

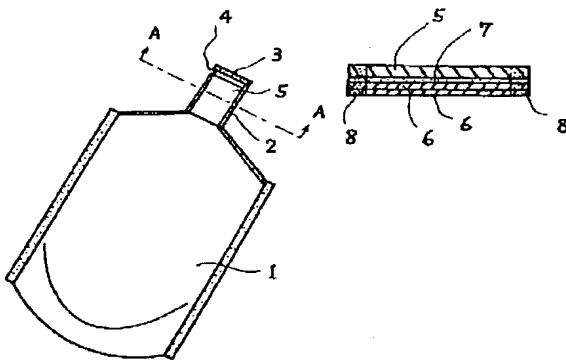
8：シール部

【図1】

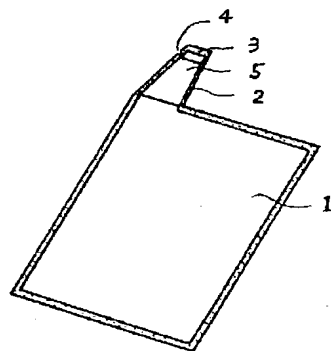
【図2】

【図3】

【図5】



【図4】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は開封後、詰め替え容器等に液体内容物を注入する際に使用される包装袋に関するものである

【0002】

【従来の技術】

従来、合成樹脂製密封袋を開封し、液体内容物を詰め替え容器に移しかえる際に使用されてきた方法としては、例えば容器側にじょうごをセットする方法、袋の隅を三角にカットする方法、注出口も兼ねた弁を利用する方法、実願昭54-45900号のように袋に突堤シール部を設けておくことにより開封時に注出口が形成される方法などがあった。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

これらには以下のような欠点があった。

例えばいずれの方法も液体内容物の濃度、容器の口径等の諸条件の変化によっては確実ではなく、また簡便ではなかった。

本考案は上記のような欠点を鑑みてなされたもので包装袋を開封し、内容物を詰め替え容器にうつしかえる作業において極めて容易、簡便確実に行えかつ安いコストで実施できる注出ガイド付包装袋を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本考案は上記課題を解決するために注出口を形成した包装袋に樹脂シートを片面または両面に接着し、一体化された構成とする。

【0005】

【作用】

上記の構成によれば、包装袋を開封して、液体等の内容物を詰め替え容器にうつしかえをする際にこの包装袋の注出口を詰め替え容器に差し込めるようになることおよびその一種の弁機能により、洩れる事なく確実容易に作業ができるよう

になる。

【0006】

【実施例】

以下、本案の実施例について図面に基づいて説明する。

実施例 1

図1は本考案の一実施例である袋の斜視図で、1は袋、2は注出口、3はシール口部、4は開口切欠部、5はガイドシートである。

本実施例においては注出口を設けた包装袋において、注出口位置にガイドシートが接着され一体化されている。ガイドシートは本実施例においてはフィルム片面に貼り付けられている。今回素材としてはポリエチレンテレフタレート樹脂またはポリスチレン樹脂で厚さが0.1mm程度のシートのものが用いられた。またガイドシートは内容物粘度、取扱い条件によって両面に設けることもできる。

図2は図1におけるA-A断面を示したものである。5はガイドシート、6はフィルム、7は接着層、8はシール部である。フィルム6の片面にガイドシート5が接着層7により貼り付けられ、それにもう一方のフィルム6がシールされ袋体の構成となっている。このガイドシート5が注出口部分のフィルム表面に貼り付けられる事によってフィルム表面がある剛性をもって張られるため張力が生じ、注出口2を閉じようとする力となり、一種の弁の役割を果たすものである。故に、例えば開封後洗剤等の液体内容物がまだ包装袋内に残っていた場合でも、これを倒したり逆さにしても漏れることはない。このため本考案の包装袋からの詰め替え容器への注入作業は作業時あまり注意しなくともこぼすことが少なくなり容易となる。また素材としては環境問題に対応した分解性プラスチックを使用することも可能である。

実施例 2

図3は本考案のその他の実施例である袋の斜視図で、1は袋、2は注出口、3はシール口部、4は開口切欠部、5はガイドシートである。実施例1に対し、注出口を外側部の位置に配置したものである。このため製袋作業が容易となり、その結果コストダウンにつながる。このように注出口はどの位置でも形成が可能である。また注出口寸法、形状は内容物粘度と注入時の押さえ圧力との関係で決定

される。

実施例 3

図4は本考案のその他の実施例を示す斜視図で、1は袋、2は注出口、3はシール口部、4は開口切欠部、5はガイドシートである。注出口2に口方向に傾斜を設け、先端部では幅を小さく、根元部では大きくし、容器への注出口の挿入をしやすくかつ液こぼれの防止を目的としたものである。容器の口径に合わせてあとで注出口を切ることも可能である。この実施例の場合は注入量をかなり少量からコントロールすることができる。

実施例 4

図5は本考案のその他の実施例を示す斜視図で、1は袋、2は注出口、3はシール口部、4は開口切欠部、5はガイドシートである。ガイドシート5が袋の上辺部全体に形成されたことを特徴としている。通常の袋においては芯のない柔構造のため内容量が少なくなると不安定な軟弱構造となり、注入しにくくなるが、本実施例においては袋がしっかりと張った状態となり、終わりまで容易に移しかえる事ができる。

【0007】

【考案の効果】

本考案に従えば、詰め替え容器へのうつしかえ作業が容易、簡便に行うことができる。すなわち、注出口部分にガイドシートを貼り付けた構成としたため詰め替え容器注入口に差し込みが容易となる事とさらに注出口部分のフィルムに張力がかかるため注出口を一定の力で閉じる働きをもたらす。そのため一種弁の作用となり、ある一定以上の圧力をかけないと内容物はそとに出ないようになっている。

このように本考案は簡易簡便な構造において、注出入を容易とする注出口の剛体性と注出口の弁機能としての効果を達成できるものである。したがって、もし誤って倒してもまたさかさにしてもこぼれることはない。また半分使用して残すことも可能となり、使用にあたっての自由度が増し、使い勝手が良くなるものである。内容物としては洗剤等の表面活性剤や粘度の高い液体に対しての適用も可能である。また本考案は詰め替え容器としての使い捨て容器を使用するのではな

く、包装袋を提供するものであるから省資源、環境保全にも資するものである。
さらにこれに分解性プラスチックを用いることも可能で一層の環境保全への貢
献につながりうる。

【0008】